



ふねあいのひろば

第21号



8月20日～21日『コスタリカ共和国大統領一行来岡レセプション』

中央が大統領ご夫妻、左が大統領夫妻肖像画家の小松原寿氏

ごあいさつ

会長 野津 喬

平成17年度は、当協議会設立20周年に当たるのを記念して、富川・サンホセ・新竹市への市民訪問団の派遣や受け入れ、子供海外派遣・子ども国際サマーキャンプなどの事業を実施してきましたが、その最後を、今年2月の「岡山市国際交流協議会20年のあゆみパネル展」で飾ることができました。パネル展の写真1枚1枚が、この20年間、さらにはそれまでの長い間における、友好交流の歴史のひとつひとつとも言うべきものでありました。

特に、サンノゼ市との交流の古い写真は、岡山市が全国で3番目に姉妹都市縁組をした先進性を改めて思い起こさせるものでありましたが、その後のサンホセ、プロブディフ、洛陽などとの交流の数々の写真も岡山市の国際都市交流への積極的な取り組みを物語るものとして大変印象的でした。交流手段も通信も今日ほど発達していない、交流が困難な時代にあって、多くの諸先輩が、岡山市の国際化や国際交流のためによくもここまでできたものだと、深い敬意と感謝の意を表するものでありました。

さて、今年、洛陽市との友好都市提携25周年という意義深い年であります。岡山洛陽両市の四半世紀の友好交流を振り返るとともに、その一層の発展に向けて皆様方とともに努力したいと思っております。早速4月には岡山市民友好訪中団が洛陽市を訪問することになっております。25周年を機に両市の友好関係がさらに進展することを期待させる幸先のよい事業であります。

また、来年は、サンノゼ市との50周年という大きな節目が重なります。さらに近年、インド・プーネ市と子ども達の相互訪問などを中心に着実に友好関係が深まっております。これらのことを踏まえ、平成18年度は、次年度のことも視野に入れた取り組みが重要であります。

このような背景のもと、当協議会はひとつひとつの国際化事業に着実に取り組むことによって、岡山市の国際化の一層の発展に寄与してまいりたいと考えているところであります。会員皆様方をはじめ、多くの市民の皆様方のご理解とご支援をいただきますようお願いする次第です。

● ● ● 目 次 ● ● ●

岡山市国際交流協議会20周年記念事業

- ・北米・中米友好親善ツアー岡山市民訪問団 …………… 1
- ・岡山市国際交流協議会20年のあゆみパネル展 …………… 2

サンノゼ市との交流

- ・サンノゼ市へ専門家派遣 …………… 2

サンホセ市との交流

- ・コスタリカ共和国大統領一行来岡 …………… 3
- ・「コスタリカ展覧会」「姉妹縁組サンホセ市展」「コスタリカ物産展」 …… 3

洛陽市との交流

- ・第15回洛陽市技術研修生帰国報告 …………… 4
- ・第12回岡山市技術研修生帰国報告 …………… 5

富川市との交流

- ・岡山市民友好親善訪韓団 …………… 5
- ・岡山市・富川市職員相互派遣 …………… 6

新竹市との交流

- ・岡山市民親善訪問団 …………… 6

富川市・新竹市市民親善訪問団来岡 …………… 7

第11回岡山市子供海外派遣事業 …………… 8

子ども国際サマーキャンプ2005 …………… 9

ふれあいトピックス …………… 11

友好交流サロン

- ・外国語会話教室・日本語教室 …………… 12

- ・国際交流ふれあい講演会 …………… 13

- ・「あくら」の発行 …………… 14

- ・ボランティア活躍記 …………… 14

- ・インターネットの無料サービス …………… 15

- ・サロン情報をメールでお知らせ …………… 15

- ・外国語図書の貸出 …………… 15

- ・ホットミニ情報 …………… 15

岡山市国際交流協議会20周年記念事業

◆北米・中米友好親善ツアー岡山市民訪問団（平成17年7月25日～8月2日）

日本とコスタリカなど中米5カ国との国交樹立70周年にあたる「日・中米交流年2005」にちなみ、岡山サンホセ交流協会と共同で、訪問団（23名）をコスタリカの首都で本市の国際友好交流都市であるサンホセ市へ派遣し、在コスタリカ日本大使館主催の「日本週間」関連事業（歓迎式典、日本語弁論大会等）へ参加し、サンホセ市民との交流を深めました。また、1993年から岡山と交流が続いている米国オレゴン州ペンドルトンのNative American（ウマティラ・ワラワラ・カイユース族）の居留地を訪問し、部族連合の伝統ダンスの歓迎式、藤田天一氏（製作者）から鯉のぼりの切り絵贈呈などの交流事業を通じてウマティラ部族連合と市民レベルの友好を深めました。



↑サンホセ市役所表敬訪問の際サンホセ・バンドの生演奏

↓岡山公園の桃太郎像の前



↑岡山公園にてサンホセ市主催の「日本週間2005」交流イベント

↓米国オレゴン州ペンドルトン「日の出の儀式」



↑先住民の先祖への献花

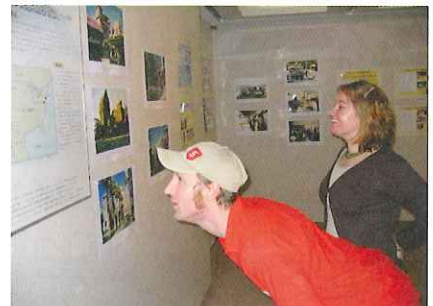
↓米国ウマティラ・インディアン居留区の学校での交流



◆岡山市国際交流協議会20年のあゆみパネル展

とき：平成18年2月16日～2月22日 ところ：西川アイプラザ4F 展示コーナー

岡山市国際交流協議会設立20年を記念し、パネル展を開催しました。当協議会が主催した国際交流事業の20年のあゆみをはじめ、岡山市の国際友好交流都市のプロフィールや本市との交流を写真やパネルなど(129点)で紹介しました。



サンノゼ市との交流

サンノゼ市へ専門家派遣

(平成18年2月12日～2月27日)

岡山市は国際友好交流都市である米国サンノゼ市と平成4年度から友好交流事業として専門家の相互派遣を行っています。この事業は、様々な専門分野（建築・医療・災害救助・教育・文化等）における専門家の交流を実施することにより、情報交換・人的ネットワークを構築し、両市民の相互理解に寄与することを目的としています。昨年度は音楽分野の小野エリコさんを派遣し、岡山ジュニアオーケストラと交流のあるサンノゼユースシンフォニーの視察や交流活動を行いました。

「サンノゼ市を訪問して」

小野 エリコ氏（岡山市ジュニアオーケストラ運営委員会 オークストラ指導員）

このたび、専門家派遣事業により、カリフォルニア州のサンノゼ市を訪問して参りました。同市には全米で最も古い歴史のある青少年のためのオーケストラがあり、岡山市ジュニアオーケストラとも長年にわたり、密接な関係にあります。今回は、サンノゼユースシンフォニーオーケストラ（以下SYJ）の理事長である、Charlotte Powers氏のもとで、SYJの運営、練習見学を中心に、また、現地の小中学校の音楽教育の現状なども織り交ぜながら視察研修することができ私の予想していた以上の内容となりました。

現在サンノゼ市内の多くの小中学校は、州の方針によって音楽の授業をカットされています。それに伴い、Powers氏は、市内の小学校の何校かに、独自の企画運営する音楽教室を提供しています。子供達はキーボード、ギター、フルート、クラリネット、トランペットなどの楽器を習いながら、新しいことへの挑戦、友達とのふれあい、楽器を演奏する楽しさなど、音楽を通してたくさんのことを学んでいました。時差ボケを感じている間もない程、あっという間に終わってしまった2週間でしたが、これほど充実した時間は今までになかったかもしれません。他にもSYJの指導員が企画するハンディキャップの子供達のためのプログラムなど、ここでの音楽教育の幅広さ、奥深さに改めて感動しました。私自身もそれに携わる一員として、やらなければいけないことが、まだまだたくさんありそうです。

今回の研修内容を、より多彩にアレンジしてくださったCharlotte Powers氏をはじめ、ホストマザーのGloria Stern氏、現地との連絡、送迎などPacific NeighborsのBob Green氏、Kazuko Green氏ご夫妻には大変お世話になりました。この書面をお借りして、心よりお礼を申し上げます。



Charlotte Powers氏(左)と打ち合わせ

サンホセ市との交流

○コスタリカ共和国アベル・パチェコ大統領一行来岡（平成17年8月20日・21日）

コスタリカ共和国大統領一行11名が、愛知万博「愛・地球博」の「中米の日」に出席の後、岡山市を公式訪問されました。滞在中ママカリフォーラム岡山前広場の一角を「サンホセスクエア友情の広場」と命名する式典に出席したほか、西川アイプラザでの岡山市ジュニアオーケストラの演奏の鑑賞や、歓迎レセプション等に参加されました。



「サンホセスクエア友情の広場」除幕式に出席



岡山市ジュニアオーケストラの皆さんに激励の挨拶

○「コスタリカ展覧会」（平成17年10月19日～10月29日）

場所：まちかど美術館サンホセ

サンホセ市出身の写真家や画家5名の作品約30点を展示する「コスタリカ展覧会」をまちかど美術館サンホセで開催しました。これに合わせて、出展者の一人である写真家エンリケ・ロドリゲス・レオン氏が来岡しました。



「コスタリカ物産展」



写真家のエンリケ・ロドリゲス・レオン氏

○「姉妹縁組サンホセ市展」 「コスタリカ物産展」

場所：まちかど美術館サンホセ
（平成18年1月25日～1月30日）

岡山市の国際友好交流都市であるコスタリカ共和国サンホセ市を写真などで紹介する「姉妹縁組サンホセ市展」及び、コスタリカの優れた物産を紹介する「コスタリカ物産展」を同時開催しました。



「姉妹縁組サンホセ市展」

洛陽市との交流

第15回 洛陽市技術研修生

「美しい岡山の秋に成果を収めて帰国する」

洛陽市技術研修生 張 淑梅

時間が経つのは早いものですね。瞬く間に一年が過ぎようとしています。今でも岡山に降り立った日のことを覚えています。まるで昨日のことのようです。来岡前は生活に適応出来るか不安でしたが、岡山空港で親切に出迎えて下さった日本の方々や、岡山の綺麗で美しい環境は、すぐに私を受け入れてくれました。それから私の楽しく充実した生活は始まりました。たくさんの方が私をいろんな所へ連れて行って下さり、多くの楽しい思い出が出来ました。それは全て貴重な経験になりました。

研修では進んだ医療技術の素晴らしさを感じました。脳腫瘍の手術には顕微鏡とナビゲーションシステムを併用しており、非常に安全性の高い手術を行っています。薬剤を扱うところはロボットを使用し仕事の効率を上げています。従業員全員の仕事に対する真剣さ、患者の立場に立った優れたサービス、徹底した協力精神に非常に感動し、また啓発されました。済生会の理念である“あらゆる人々に手をさしのべる、済生の心で誠の医療奉仕に努めます”は私の看護観と重なっています。そのため愛と希望に溢れた病院の真の理念の意味を十分に理解出来ました。

日常生活で様々なイベントに参加し充実した時間を過ごすことが出来ました。長泉寺と福渡高校へ行き、市民や学生のみなさんに水餃子を作り食べてもらったことや、ボウリング大会、新年会、お盆祭りに参加しました。お年寄りや市民の人たちとの文化交流では国境を越えた心と心の触れ合いを感じ真の国際交流が出来たと思います。また職員の方々にチボリ公園、瀬戸大橋、後楽園、姫路城等を案内して頂いて、研修旅行もしました。日本の歴史、文化への理解を深め視野を広げることが出来ました。

私は美しい岡山の秋に成果を収めることが出来ました。すべての貴重な経験を洛陽へ持って帰り、これからの仕事や生活に生かしていきたいと思えます。一年間お世話になった全ての方々に深く感謝申し上げます。みなさん！あらゆる人に愛をさしのべることの出来る美しい心をもてるよう頑張りましょう！！



前列左から2番目が張さん

「楽しい日々 - 日本での1年間の研修の感想 -」

洛陽市技術研修生 鮑 静

毎日、朝日の中を病院へ向かい、1日の研修が始まります。病院のスタッフと一緒に入院者の健康チェックをしたり、清拭をしたり、処置をしたり、センターのお年寄りたちと一緒に歌を歌ったり、ゲームをしたり、多種多様な祭りに参加したりしています。そして夕日の中で研修が終わります。週末には、買い物に行ったり、日本料理を食べたり、勉強したり、ほかに旅行をしたり、スタッフに日本の文化遺産や名所を見に連れて行ってもらうたりしています。

以上は私たちの日本での研修の生活です。毎日忙しいけれども、楽しくてならないです。私は鮑静と申します。2004年12月に研修生として日本に参りました。この1年の間に、次々に済生会ライフケアセンター、岡山済生会総合病院、旭東病院、榎原病院でいろいろな病棟を回って研修していました。それを通して、日本の進んだ医療技術を学んだり、近代的な医療施設を見学したりして、「患者中心」のサービスを体験することができました。そして、日本の習慣や文化も体験をさせていただきました。



右が鮑さん
中央が日中友好協会会長の片岡氏

時間が経つのは速いものですね。あっという間に1年が経ちました。市役所のスタッフにお茶を招待されたのはまるで去年のことのようです。今でもありありと目に浮かびます。もうそろそろ研修が終わってしまうなんて、名残惜しくてたまりません。日本での日々は私にとって一生最も貴重な思い出になるでしょう。この1年間皆様にいろいろ教えていただいて、大変お世話になりました。そのおかげで、日本で楽しく過ごすことができました。本当にありがとうございました。今後ともよろしくお願ひします。

第12回 岡山市技術研修生

「洛陽での研修を終えて」

岡山市技術研修生 犬飼 真由子

私にとっては、洛陽での生活は、今まで経験したことのないことばかりだった。ここで学んだこと、それは勉強するにしても、生活していくにしても、まずは精神的な環境がとても大切だ、ということである。

私は洛陽で1人、心から信頼でき、悩みを打ち明けられる友人を見つけた。彼女がいなければこんなにも有意義な気持ちで研修を終了することはできなかっただろう。同じ国のものであっても、分かり合えない人がいるように、違う国のもの同士でも、分かり合えることができるのだ、ということ学んだ気がする。洛陽での経験をこれからの生活に生かせるよう引き続き努力し、このような機会を与えてくださった全ての方、支えてくれた家族に感謝し、出会いを大切に生きていきたい、と思う。



(右が犬飼さん)

「文化交流から生まれた絆」

岡山市技術研修生 小原 幸

私たちは2005年の3月下旬から河南省洛陽市の洛陽大学で十ヶ月ほど過した。私の一番の思い出は、毎週大学で日本語交流会を開き、日本の文化を伝えることを通して学生達と交流できたことだ。例えばおりがみを一緒に折ったり、おむすびを一緒に作ったり、クリスマスにはサンドイッチを作ったりした。毎週どうしたら楽しく交流できるのか考えたり、準備をしたりするのは大変だったが、その交流会に毎回参加してくれたり、手伝ってくれたり、励ましてくれたりする友達もいてうれしかった。一番感激したことは、最後に「ありがとう」と言ってくれたことだ。私はただ皆と交流し、日本の文化や言葉を伝えたかっただけで、感謝をしているくらいだ。このような交流を通してたくさんの仲間と知り合え、信頼関係が生まれたことは私にとって良い経験となった。日本へ帰って来た今、改めて日本または中国の生活や文化について見直す良いきっかけになっていると思う。私は友達と「一定再来(きっとまた来る)」と約束を交わした。また会えると信じてこれからも努力していきたい。私の勉強は始まったばかりだ。



洛陽大学日本語交流会の皆さんと(前列中央が小原さん)

富川市との交流

岡山市民友好親善訪韓団

(平成17年5月5日～5月7日)

第4回目の市民友好親善訪韓団ほか(総勢約190名)がボクサゴル芸術祭への参加等を行いました。



歓迎式・富川フィルによる演奏



富川市表敬



国会議事堂の前で前富川市長
ウォン・ヘヨン国会議員と

岡山市・富川市職員相互派遣

「韓国・富川市にて…」

下釜 博子

研修分野：市民生活支援政策・地域経済活性化政策
研修期間：平成18年1月15日～3月31日

富川市は文化産業に力を入れている人口86万人の大都市です。こちらに来て特に感じることは、「変化・活気」です。80年代末から都市計画を始め、街並みはもちろんですが、人々も柔軟に変化に対応していると感じます。また、変化に対応できるように食を大切にし、健康を保ち、勤勉に努力していると感じます。みなさん、よく食べて明るく元気です。いろんな方に出会い多くの刺激を受けている毎日です。富川経済について、多くのことを学びました。



富川市役所にて

地方自治体では全国に先駆けて、相談、苦情等のコールセンターを設置していますが、担当者の並々ならぬ努力には感銘を受けました。

中央が金さん
日本語の勉強に熱心に取り組む→

「岡山での研修…」

金 重玉

研修分野：企業支援
研修期間：平成17年12月5日～平成18年2月28日

研修を通して岡山の文化と共に、岡山市の施策を学び、富川市の市政に反映させる目的で、3ヶ月間岡山市にて研修しました。緊張して岡山空港に到着しましたが、国際課の皆さんの温かい出迎えて緊張が解け、韓国の田舎を訪問したような楽な気分になりました。岡山市は富川市より面積が10倍も広く、人口は少なく、豊かな自然環境を保有している都市です。また、地方都市であるにもかかわらず、国際会議場や最高水準のホテルだけでなく、多様な福祉・公共施設と外国人のための案内板、語学講座開講、情報収集など、外国人にとっても住みやすく、世界数十カ国の外国人が生活するのを見て、国際的な都市であると感じました。

この紙面を通して、研修にご協力くださった関係者の皆様、特に友達や兄弟のように接して下さった国際課の皆様へ感謝申し上げます。岡山のこの温かい親切な心は、富川市に帰っても忘れることはできません。



商工会議所で富川市を紹介
右から3人目が金さん

新竹市との交流

岡山市民親善訪問団

(平成17年9月30日～10月3日)

岡山市民親善訪問団60名が新竹市を訪問し、肉団子祭り開幕式への参加等により友好親善を深めたのをはじめ、東門城や消防博物館を見学しました。



林新竹市長が自ら中正空港まで出迎え(後列左から3人目が林政則市長)



ピンクの法被姿で肉団子祭りに参加



肉団子で作ったそろばんに歓声

◆◆◆ 富川市・新竹市市民親善訪問団来岡 ◆◆◆

国際友好交流都市の富川市から「富川市民友好親善訪問団」、「富川市公演団」、「如月（ヨウォル）初等学校」、「大韓民国美術協会富川支部」4団体153名、新竹市から「新竹市訪問団」「欣蕾（シンレイ）舞踊団」の2団体41名が来岡し、「おかやま桃太郎まつり」への参加などを行い、岡山市民との交流を深めました。



如月初等学校の皆さんが後樂園を見学



新竹市民がパレードに参加
(おかやま桃太郎まつり)



富川市民がパレードに参加
(おかやま桃太郎まつり)



林新竹市長挨拶
(歓迎会)



岡山市・富川市友好美術展
(三丁目劇場ギャラリー)



新竹ビーフン肉団子祭りをアピール
(おかやま桃太郎まつり)



新竹市欣蕾舞踊団の子どもたち
(花火大会見学会にて)→

← 洪富川市長挨拶
(花火大会見学会にて)

